

衝突時衝撃吸収クッション車

車線規制時の衝突事故被害を大きく軽減することができます



道路工事で車線規制を行う場合、作業員の安全確保が大きな課題となっています。今回、建設機械の総合レンタルを行うキナン様と、日本航空の関連会社で空港内の様々な作業を行っているJA LUX様からのご依頼を受け、オランダVERDEGRO社の衝突時衝撃吸収クッションTMAシリーズの架装を行い、これらの課題に協力させていただきました。



EUでは、車線規制時には衝撃吸収クッション車を配置することが指定されているため、ヨーロッパは衝撃吸収装置において最先端を行っています。



軽量アルミ合金によるハニカム構造になっており、これが潰れることで後方からの衝突を受け止め、時速70kmで一般車が衝突しても車を包み込むように衝撃を吸収し、現場の2次災害を防ぐことができます。



車を包み込むように受け止めるため他の車線への影響も最小限に留めることができ、部品の飛散も低減できるので、事故による通行止めリスク軽減や、事故からの復旧にかかる時間の短縮など、道路インフラ業界に与えるインパクトは絶大です。



日本でも、作業員の安全・安心のためにも、このような装置が普及するとイイですね！私たちがヤシカ車体は、このような車両の製作に参加することで、安心・安全な社会の構築に貢献いたしております。